

**UTグループ**  
**2008年3月期 第3四半期決算説明会**

---

2008年2月14日

ユナイテッド・テクノロジー・ホールディングス株式会社  
代表取締役社長 兼 CEO 若山 陽一  
代表取締役COO 水谷 智



ユナイテッド・テクノロジー・ホールディングス

# Contents

---

## ■ **UTグループ概要**

## ■ **2008年3月期 第3四半期決算報告**

- **UTグループ（連結）**
- **アウトソーシング事業（日本エイム(株)）**
- **製造装置事業（(株)エイペックス）**
- **製造装置事業（マイクロ技研(株)）**
- **設計開発事業（(株)アルティスタ）**
- **新会社のご紹介**

## ■ **コミットメント**



ユナイテッド・テクノロジー・ホールディングス

Copyright (C) 2007 United Technology Holdings Co., Ltd. All rights reserved.



# UTグループ概要

---

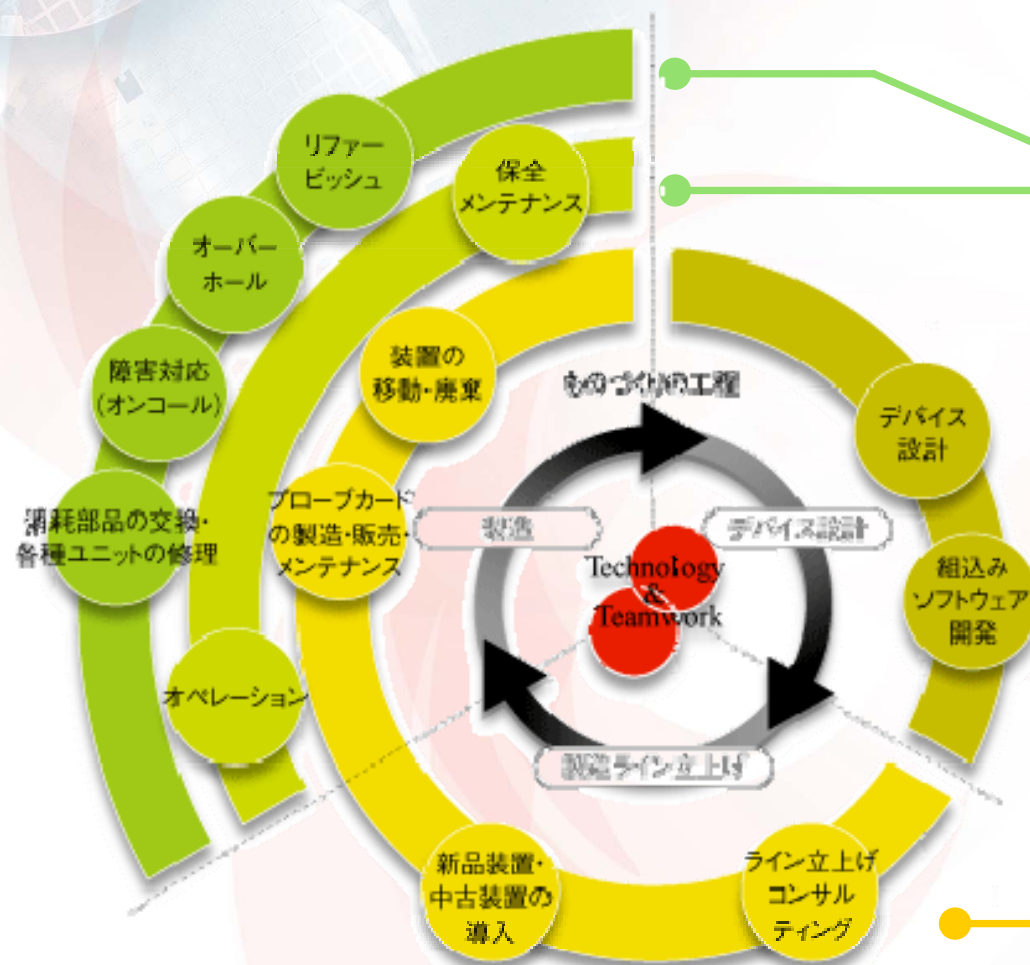


ユナイテッド・テクノロジー・ホールディングス

Copyright (C) 2007 United Technology Holdings Co., Ltd. All rights reserved.



# ■ UTグループの事業領域



## アウトソーシング事業

最先端ものづくり現場で培ったノウハウを活かし、製造業務を一括請負。各工程のオペレーションから装置メンテナンス、機器調整等も受託。各工程の日々の作業改善を提案するなど、高い付加価値を提供。

## 設計開発事業

製造装置の開発・製造や、デバイスの製造オペレーションなど、半導体・FPD生産に関する幅広い経験とノウハウを活かして、製造プロセスおよびコストを視野に入れた設計(DFM)を実践。

## 製造装置事業

現場に精通したリーダーを中心に、工程ごとの人材配置や装置選択を行い、短期立上げを実現。製造装置導入にあたっては、各種の新品・中古装置を取り揃え、経験豊富なスタッフがコストに応じて提案。



# ■ UTグループ構成図

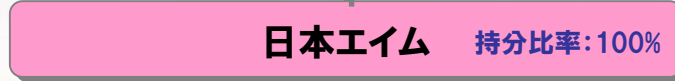
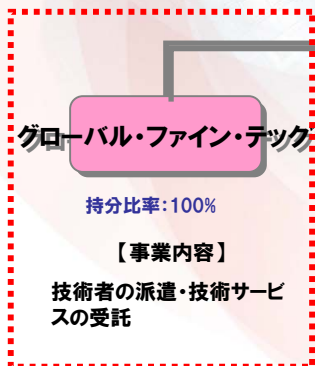
設計—装置—人材の3つの面からコストダウン・ソリューションを提供する総合会社に

アウトソーシング事業

製造装置事業

設計開発事業

ユナイテッド・テクノロジー・ホールディングス



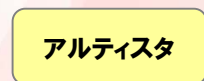
【事業内容】

半導体・FPD製造アウトソーシング  
半導体・FPD製造装置のメンテナンス



【事業内容】

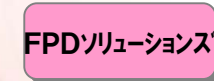
中古半導体・FPD製造装置販売



日本エイム 持分比率:84.2%

【事業内容】

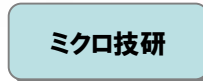
組込みソフト制作  
半導体デザイン・設計



日本エイム 持分比率:100%

【事業内容】

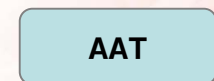
FPD製造ラインの立上コンサルティング



日本エイム 持分比率:40%

【事業内容】

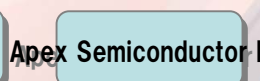
新品半導体・FPD製造装置の販売



エイペックス 持分比率:100%

【事業内容】

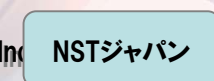
フローカードの販売・製造



エイペックス 持分比率:100%

【事業内容】

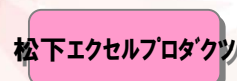
中古半導体・FPD製造装置販売



エイペックス 持分比率:39%

【事業内容】

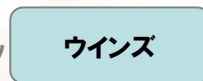
中古半導体製造装置の売  
買及び技術サービス



日本エイム 持分比率:30%

【事業内容】

製造アウトソーシング



日本エイム 持分比率:20.9%

【事業内容】

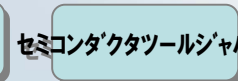
新品半導体・FPD製造装置  
の販売



エイペックス 持分比率:40%

【事業内容】

中古半導体製造装置の  
売買及び技術サービス



エイペックス 持分比率:39%

【事業内容】

中古半導体製造装置の  
売買及び技術サービス

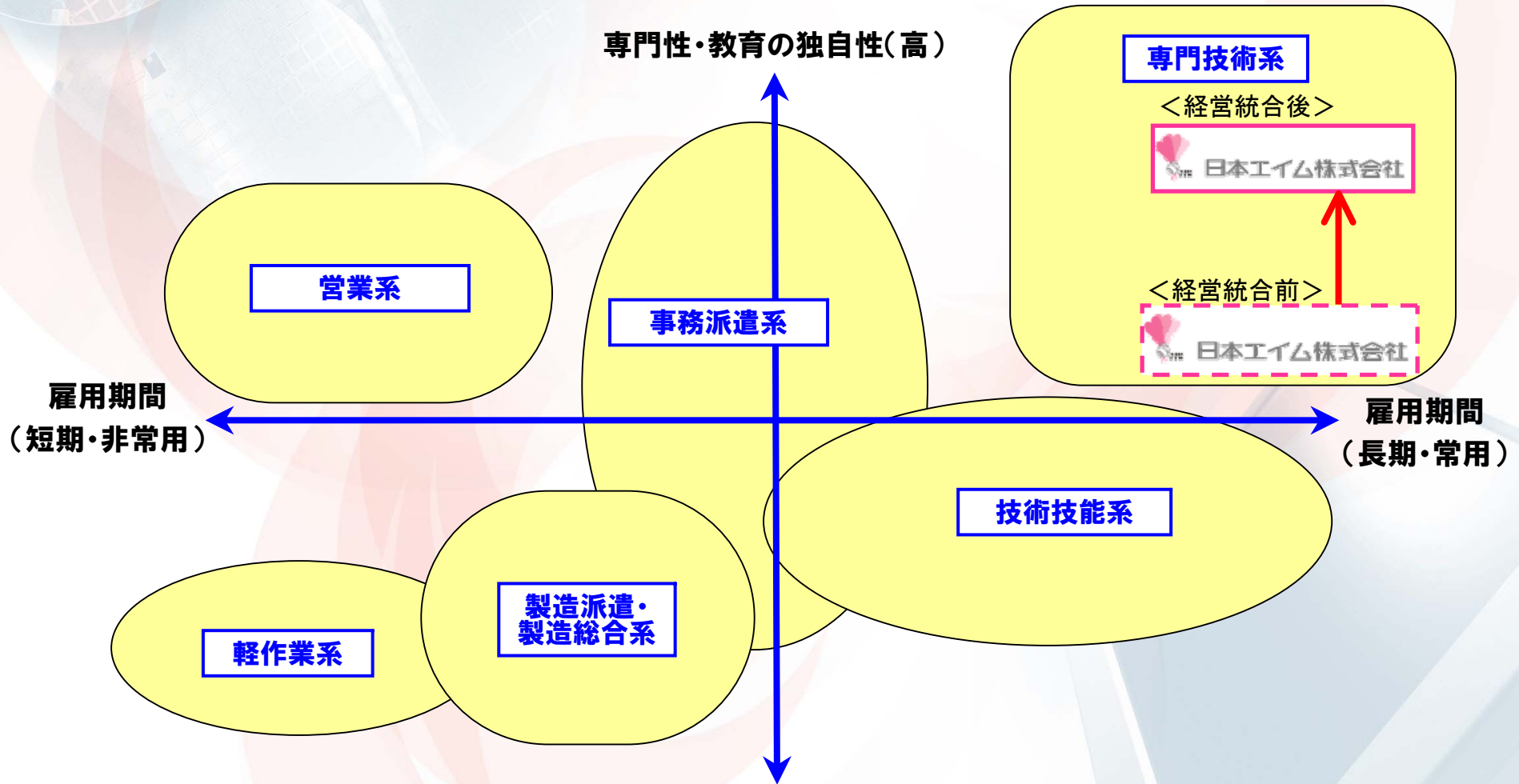
2008年2月1日

新会社設立



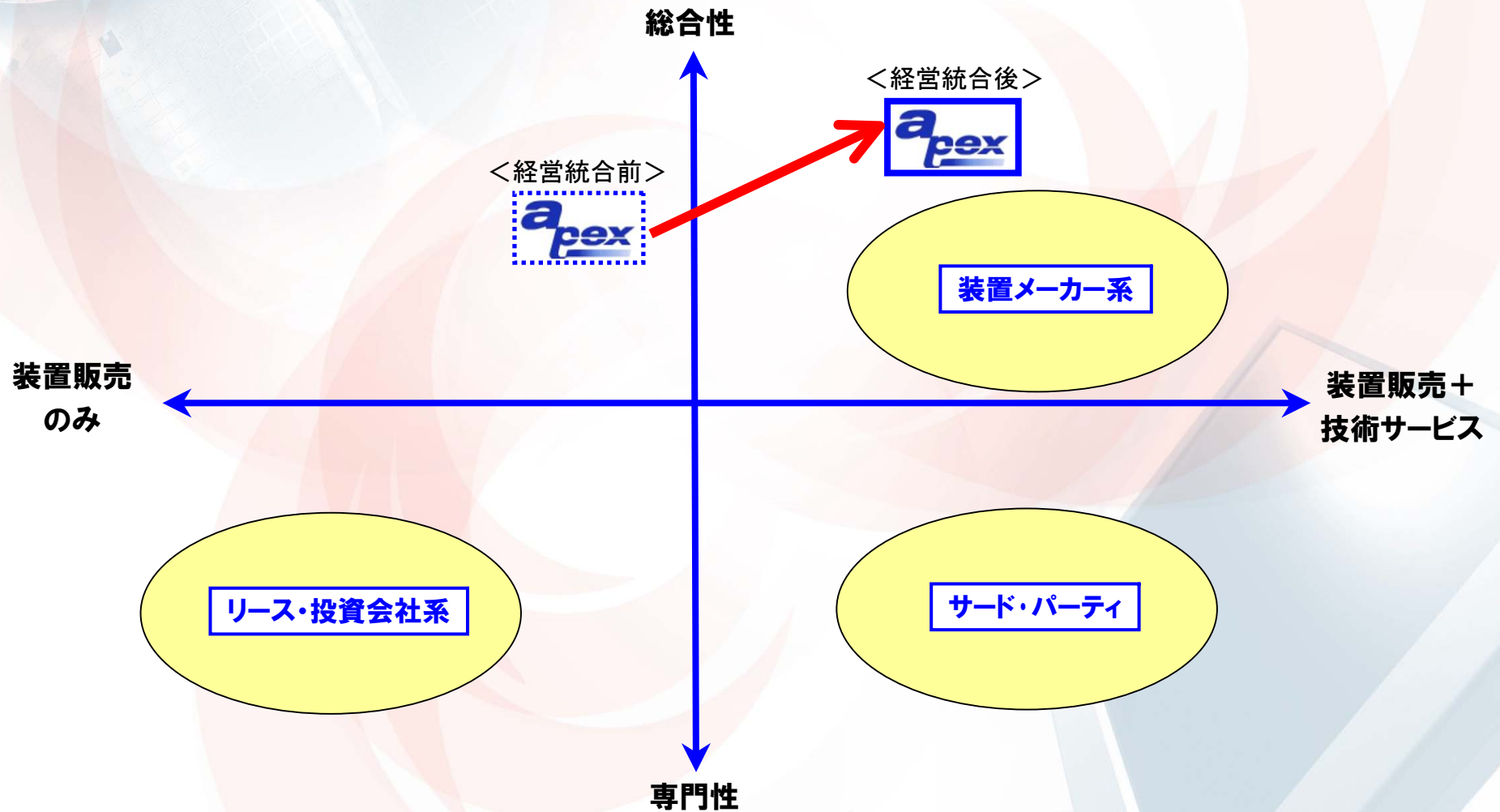
ユナイテッド・テクノロジー・ホールディングス

# ■ 経営統合による日本エイム(株)の人材業界におけるポジショニング変化



専門性・教育の独自性(低)

# ■経営統合による(株)エイペックスの中古装置業界ポジショニング変化





# ■ アウトソーシング事業の今期方針：拡大路線からの転換

## 規模(社員数)拡大路線から価値充実路線へ

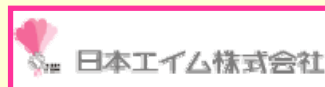
アウトソーシング業界を取り巻く環境： 厳しい採用環境、コンプライアンスへの要請

### 1社員あたり満足度アップ

- ・装置関連の教育・研修
- ・キャリアアップできる仕組み

### 1顧客あたり満足度アップ

- ・コンプライアンス
- ・中古/新品装置、部品、技術サービスへの対応



UTグループならではの  
他社にはない強みを  
さらに強化して  
差別化を図る

一人あたり売上高・  
採用効率・定着率アップ

インハウスシェアの拡大

### さらに強靱な経営体質の実現

- ・販管費率8%台を目指す
- ・採用単価の低減

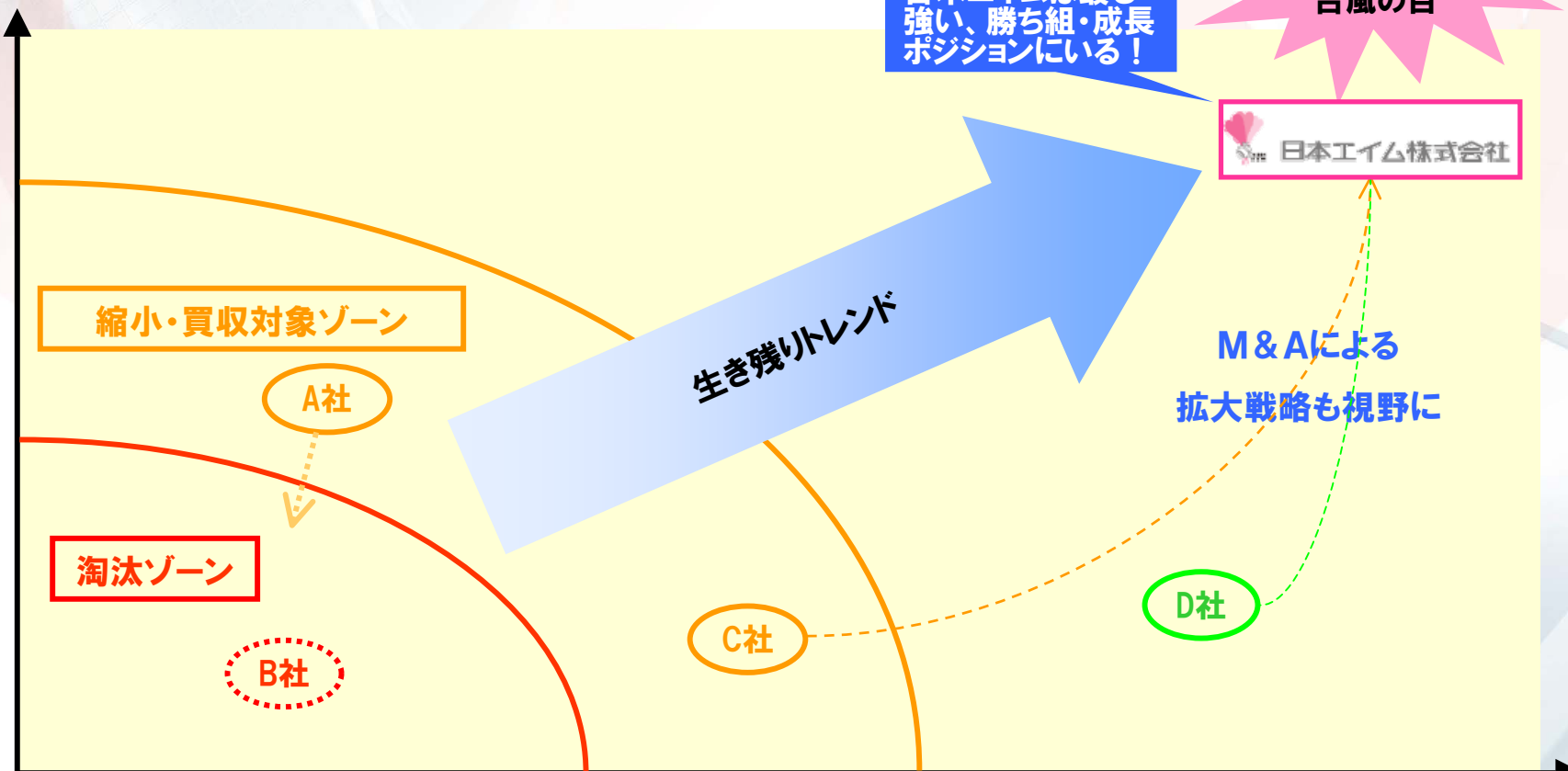
格差  
社会





# ■ アウトソーシングビジネスの業界再編の傾向

キャリアアップ  
(社員から選ばれるか)



コンプライアンス  
(顧客から選ばれるか)



**第1期（2008年3月期）  
第3四半期決算報告**

---

**UTグループ（連結）**



ユナイテッド・テクノロジー・ホールディングス

Copyright (C) 2007 United Technology Holdings Co., Ltd. All rights reserved.



# 1. 第1期第3四半期累計の連結業績（前期比較）

■前年同期比で売上高は全セグメントにおいて増加し、連結売上高は倍増となった。また販管費率は約2ポイント改善し、営業利益では前年同期比の1.5倍に増加した。

（単位：百万円）

	第3四半期累計				
	前期 (07年3月期)	構成比	第1期 (08年3月期)	構成比	増減率
売上高	21,328	100.0%	41,093	100.0%	+92.7%
アウトソーシング事業	16,338	—	20,402	—	+24.9%
製造装置事業	4,424	—	19,946	—	+350.9%
設計開発事業	566	—	745	—	+31.6%
売上総利益	3,778	17.7%	7,205	17.5%	+90.7%
アウトソーシング事業	3,055	—	3,968	—	+29.9%
製造装置事業	601	—	3,087	—	+413.6%
設計開発事業	122	—	150	—	+23.0%
販売費及び 一般管理費	2,307	10.8%	3,502	8.5%	+51.8%
営業利益	1,471	6.9%	3,703	9.0%	+151.7%
経常利益	1,492	7.0%	3,587	8.7%	+140.4%

\* 前期の製造装置事業の数値については㈱エイペックス連結企業の業績を示しています。





## 2. 第3四半期の連結業績（前期比較）

■ 製造装置事業を筆頭に前年同期で全セグメントにおいて伸びている。

（単位：百万円）

	第3四半期				
	前期 (07年3月 期)	構成比	第1期 (08年3月期)	構成比	増減率
売上高	7,398	100.0%	13,951	100.0%	+88.6%
アウトソーシング事業	6,261	—	6,892	—	+10.1%
製造装置事業	926	—	6,800	—	+634.3%
設計開発事業	211	—	259	—	+22.7%
売上総利益	1,277	17.3%	2,107	15.1%	+65.0%
アウトソーシング事業	1,134	—	1,404	—	+23.8%
製造装置事業	112	—	659	—	+488.4%
設計開発事業	31	—	44	—	+41.9%
販売費及び 一般管理費	852	11.5%	1,194	8.6%	+40.1%
営業利益	425	5.7%	913	6.5%	+114.8%
経常利益	488	6.6%	866	6.2%	+77.5%

\* 前期の製造装置事業の数値については(株)エイペックス連結企業の業績を示しています。





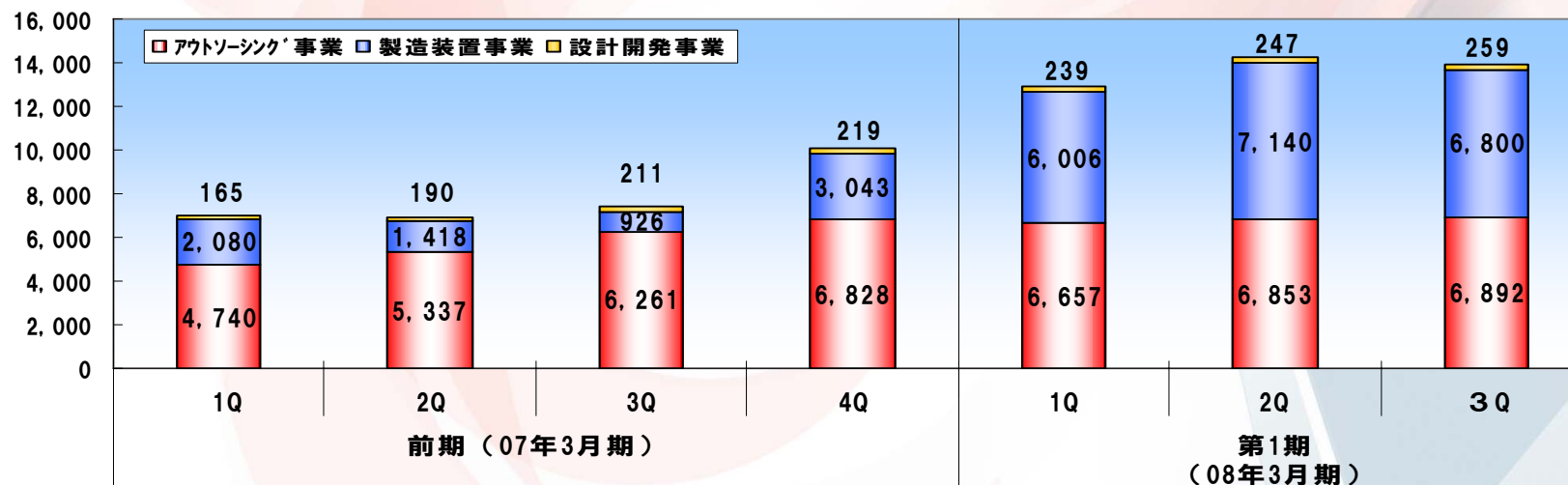
### 3. 売上高推移（連結）

■アウトソーシング事業および設計開発事業では過去最高の数値となり、製造装置事業においては前年同期比約6倍となるなど、全セグメントで増加している。

(単位:百万円)

	前期(07年3月期)				第1期(08年3月期)		
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
売上高	6,985	6,945	7,398	10,090	12,902	14,240	13,951
アウトソーシング事業	4,740	5,337	6,261	6,828	6,657	6,853	6,892
製造装置事業	2,080	1,418	926	3,043	6,006	7,140	6,800
設計開発事業	165	190	211	219	239	247	259

(百万円)

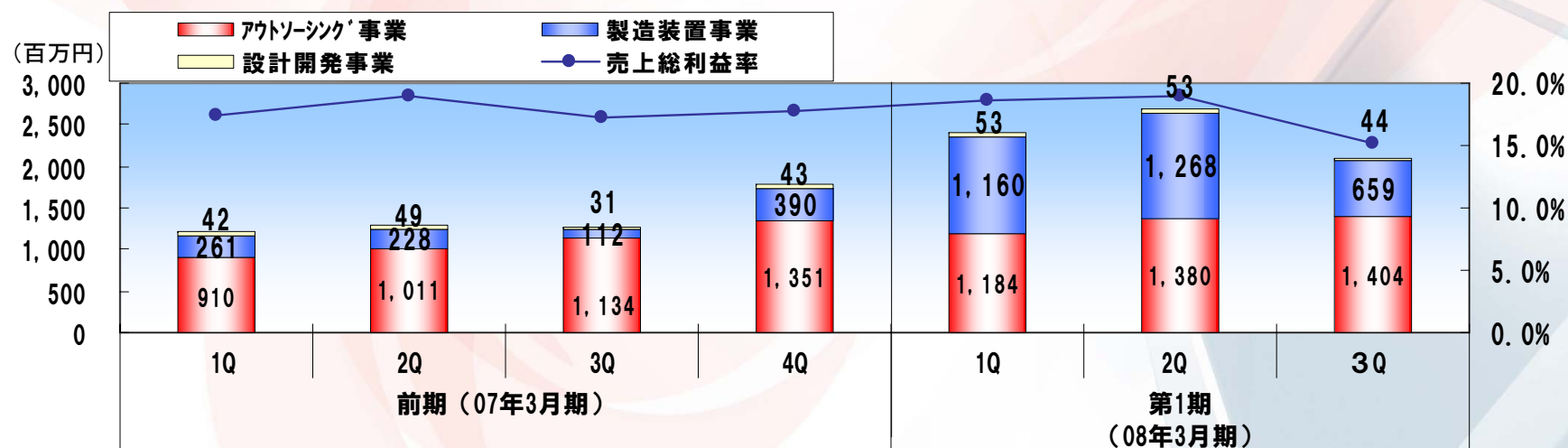




# 4. 売上総利益の状況（連結）

(単位: 百万円)

	前期 (07年3月期)								第1期 (08年3月期)					
	1Q	粗利率	2Q	粗利率	3Q	粗利率	4Q	粗利率	1Q	粗利率	2Q	粗利率	3Q	粗利率
売上総利益	1,213	17.4%	1,288	18.5%	1,277	17.3%	1,784	17.7%	2,397	18.6%	2,701	19.0%	2,107	15.1%
アウトソーシング事業	910	19.2%	1,011	18.9%	1,134	18.1%	1,351	19.8%	1,184	17.8%	1,380	20.1%	1,404	20.4%
製造装置事業	261	12.5%	228	16.1%	112	12.1%	390	12.8%	1,160	19.3%	1,268	17.8%	659	9.7%
設計開発事業	42	25.5%	49	25.8%	31	14.7%	43	19.6%	53	22.2%	53	21.5%	44	17.0%





# 5. 販売費および一般管理費の状況（連結）

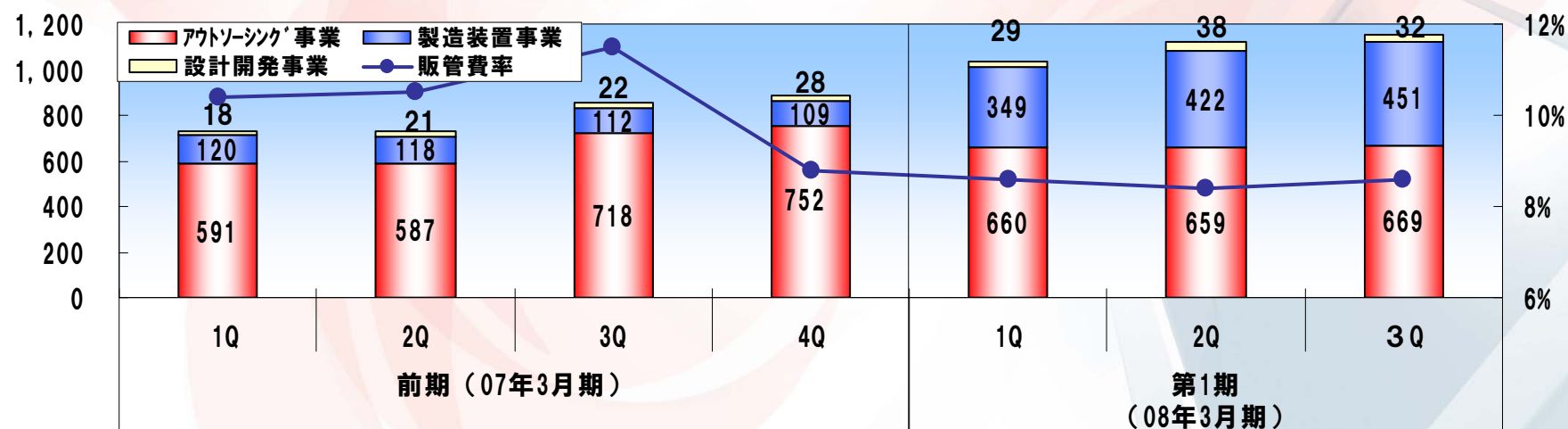
■ 連結では前年対比で約3ポイント改善した。

(単位:百万円)

	前期 (07年3月期)								第1期 (08年3月期)					
	1Q	販管费率	2Q	販管费率	3Q	販管费率	4Q	販管费率	1Q	販管费率	2Q	販管费率	3Q	販管费率
販管費	729	10.4%	726	10.5%	852	11.5%	889	8.8%	1,113	8.6%	1,195	8.4%	1,194	8.6%
アウトソーシング事業	591	12.5%	587	11.0%	718	11.5%	752	11.0%	660	9.9%	659	9.6%	669	9.7%
製造装置事業	120	5.8%	118	8.3%	112	12.1%	109	3.6%	349	5.8%	422	5.9%	451	6.6%
設計開発事業	18	10.9%	21	11.1%	22	10.4%	28	12.8%	29	12.1%	38	15.4%	32	12.4%

\* 第1期(08年3月期)の販管費(連結)は、のれん・配賦不能の費用が1Qで約75百万円、2Qで約76百万円、3Qで約42百万円含まれています。

(百万円)



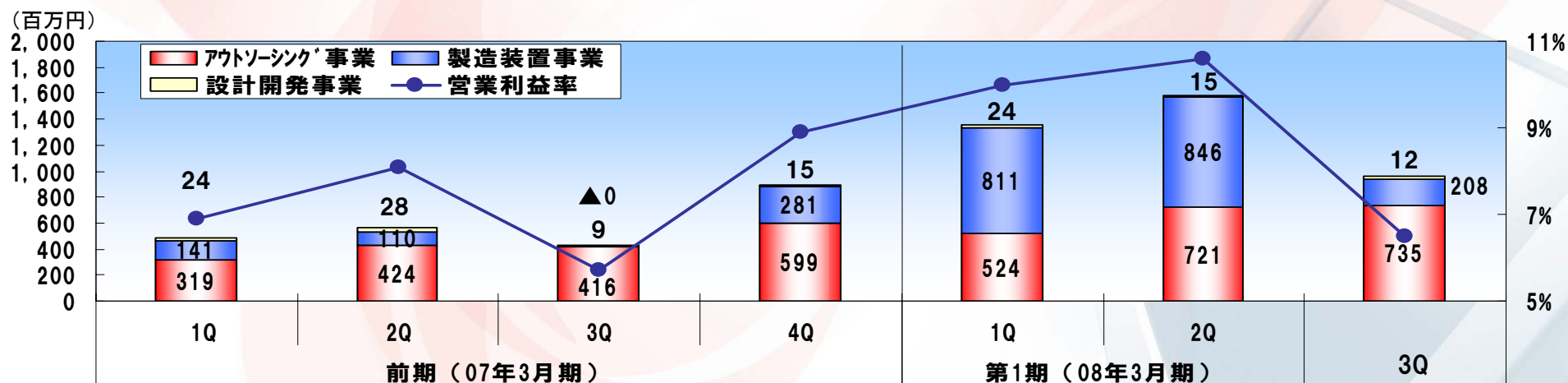


## 6. 営業利益の状況（連結）

■主力のアウトソーシング事業において過去最高額となったが、製造装置事業は販売費等の増加により上期と比較して減少した。

(単位:百万円)

	前期(07年3月期)								第1期(08年3月期)					
	1Q	営業 利益率	2Q	営業 利益率	3Q	営業 利益率	4Q	営業 利益率	1Q	営業 利益率	2Q	営業 利益率	3Q	営業 利益率
営業利益	484	6.9%	562	8.1%	425	5.7%	895	8.9%	1,284	10.0%	1,506	10.6%	913	6.5%
アウトソーシング事業	319	6.7%	424	7.9%	416	6.6%	599	8.8%	524	7.9%	721	10.5%	735	10.7%
製造装置事業	141	6.8%	110	7.8%	▲0	▲0.0%	281	9.2%	811	13.5%	846	11.8%	208	3.1%
設計開発事業	24	14.5%	28	14.7%	9	4.3%	15	6.8%	24	10.0%	15	6.1%	12	4.6%





# ■前期/今期 主要事業会社別 業績推移表

(単位:百万円)

	前期(2007年3月期)				第1期(2008年3月期)			
	第3四半期 累計	構成比	通期	構成比	第3四半期 累計	構成比	増減率	通期 (予想)
連結売上高	32,962	100.0%	46,934	100.0%	41,093	100.0%	+24.7%	48,000
日本エイム	16,338	-	23,166	-	20,402	-	+24.9%	-
エイペックス	4,424	-	7,468	-	5,176	-	17.0%	-
マイクロ技研	11,634	-	15,515	-	14,770	-	+27.0%	-
アルティスタ	566	-	785	-	745	-	+31.6%	-
連結経常利益	2,655	8.1%	3,739	8.0%	3,590	8.7%	+35.2%	4,000
日本エイム	1,133	-	1,723	-	2,002	-	+76.7%	-
エイペックス	304	-	522	-	▲19	-	-106.2%	-
マイクロ技研	1,163	-	1,412	-	1,759	-	+51.2%	-
アルティスタ	55	-	82	-	55	-	0.0%	-

\* 前期(2007年3月期)は当社設立前のため、資本提携前のマイクロ技研を含めた現在のUTグループ各社の業績を記載しています。

連結売上高、連結経常利益、連結当期純利益はこれら数値の単純合算値を記載しています。

\* 前期(2007年3月期)のマイクロ技研の第3四半期通期累積数値については、累積数値がないため、参考数値として通期数値の3/4を記載しています。

\* 前期(2007年3月期)のエイペックスの第3四半期累積数値は5~12月の9ヶ月間、通期数値は5~3月の11ヶ月間の数値です。

\* 前期(2007年3月期)の日本エイムは、日本エイム連結数値よりアルティスタの数値を引いたものです。

\* 今期(2008年3月期)第3四半期累計の連結経常利益3590百万円は、経常利益ベースののれん・配賦不能な費用207百万円を含んでいます。

\* アウトソーシング事業については、日本エイム(株)連結企業から設計開発事業を営む(株)アルティスタを除いた業績を、製造装置事業については(株)エイペックス連結企業の業績を示しています。





# ■中期経営計画 (2007年3月発表)

(単位:百万円)

	FY2008.3				FY2009.3				FY2010.3			
	MIN		MAX		MIN		MAX		MIN		MAX	
<b>連結売上高</b>	<b>36,100</b>	100.0%	<b>41,100</b>	100.0%	<b>42,200</b>	100.0%	<b>46,700</b>	100.0%	<b>49,000</b>	100.0%	<b>55,500</b>	100.0%
アウトソーシング事業	27,000	74.8%	27,000	65.7%	30,000	71.1%	30,000	64.2%	34,000	69.4%	34,000	61.3%
製造装置事業	7,500	20.8%	11,500	28.0%	9,000	21.3%	12,500	26.8%	10,000	20.4%	14,500	26.1%
設計開発事業	1,000	2.8%	2,000	4.9%	2,000	4.7%	3,000	6.4%	3,000	6.1%	5,000	9.0%
シナジー	600	1.7%	600	1.5%	1,200	2.8%	1,200	2.6%	2,000	4.1%	2,000	3.6%
<b>連結経常利益</b>	<b>2,950</b>	100.0%	<b>3,450</b>	100.0%	<b>3,750</b>	100.0%	<b>4,350</b>	100.0%	<b>4,650</b>	100.0%	<b>5,400</b>	100.0%
アウトソーシング事業	2,400	81.4%	2,500	72.5%	2,800	74.7%	3,000	69.0%	3,300	71.0%	3,500	64.8%
製造装置事業	600	20.3%	900	26.1%	700	18.7%	1,000	23.0%	800	17.2%	1,150	21.3%
設計開発事業	100	3.4%	200	5.8%	200	5.3%	300	6.9%	300	6.5%	500	9.3%
シナジー	100	3.4%	100	2.9%	300	8.0%	300	6.9%	500	10.8%	500	9.3%
のれん代	-250	-8.5%	-250	-7.2%	-250	-6.7%	-250	-5.7%	-250	-5.4%	-250	-4.6%
<b>連結当期純利益</b>	<b>1,534</b>		<b>1,794</b>		<b>1,950</b>		<b>2,262</b>		<b>2,418</b>		<b>2,808</b>	

\* アウトソーシング事業については、日本エイム(株)連結企業から設計開発事業を営む(株)アルティスタを除いた業績を、製造装置事業については(株)エイペックス連結企業の業績を示しています。

\* 実効税率は48%として計算しています。





# ■ 中期経営計画・業績予想の発表経緯

(単位:百万円)

これまでの発表経緯		第1期(2008年3月期)		第2期(2009年3月期)		第3期(2010年3月期)		
		中間期	通期		通期		通期	
			MIN	MAX	MIN	MAX	MIN	MAX
2007年3月 中期経営計画発表	売上高	16,300	36,100	41,100	42,200	46,700	49,000	55,500
	経常利益	1,200	2,950	3,450	3,750	4,350	4,650	5,400
2007年5月 第1期業績予想上方修正 *マイクロ技研資本提携	売上高	19,900	44,100					
	経常利益	1,322	3,250					
2007年8月 第1期業績予想上方修正 *第1四半期決算発表	売上高	25,000						
	経常利益	2,200						
2007年11月 第1期業績予想上方修正 *中間決算発表	売上高	27,142	48,000	42,200	46,700	49,000	55,500	
	経常利益	2,721	4,000	3,750	4,350	4,650	5,400	

(実績)





**2008年3月期 第3四半期  
アウトソーシング事業**

---

**日本エイム(株)およびその連結関係会社  
(マイクロ技研(株)・(株)アルティスタ除く)**



日本エイム株式会社



ユナイテッド・テクノロジー・ホールディングス

## 1. 第13期 第3四半期累計 日本エイム(株)業績 (前期比較)

■ 売上高が前年同期比24.9%増に対し、販管費を4.9%増に抑えて経常利益では約76%増となった。

(単位:百万円)

	第3四半期累計				
	前期 (07年3月期)	構成比	第1期 (08年3月期)	構成比	増減率
売上高	16,338	100.0%	20,402	100.0%	+24.9%
売上総利益	3,055	18.7%	3,968	19.4%	+29.9%
販売費及び 一般管理費	1,896	11.6%	1,988	9.7%	+4.9%
営業利益	1,159	7.1%	1,980	9.7%	+70.8%
経常利益	1,133	6.9%	2,002	9.8%	+76.7%



## 2. 第3四半期日本エイム(株)業績(前期比較)

■売上総利益率が20.4%となり過去最高となったほか、販管費率を9.7%に抑えることができた。

(単位:百万円)

	第3四半期				
	前期 (07年3月期)	構成比	第1期 (08年3月期)	構成比	増減率
売上高	6,261	100.0%	6,892	100.0%	+10.1%
売上総利益	1,134	18.1%	1,404	20.4%	+23.8%
販売費及び 一般管理費	718	11.5%	669	9.7%	▲6.8%
営業利益	416	6.6%	735	10.7%	+76.7%
経常利益	426	6.8%	735	10.7%	+72.5%



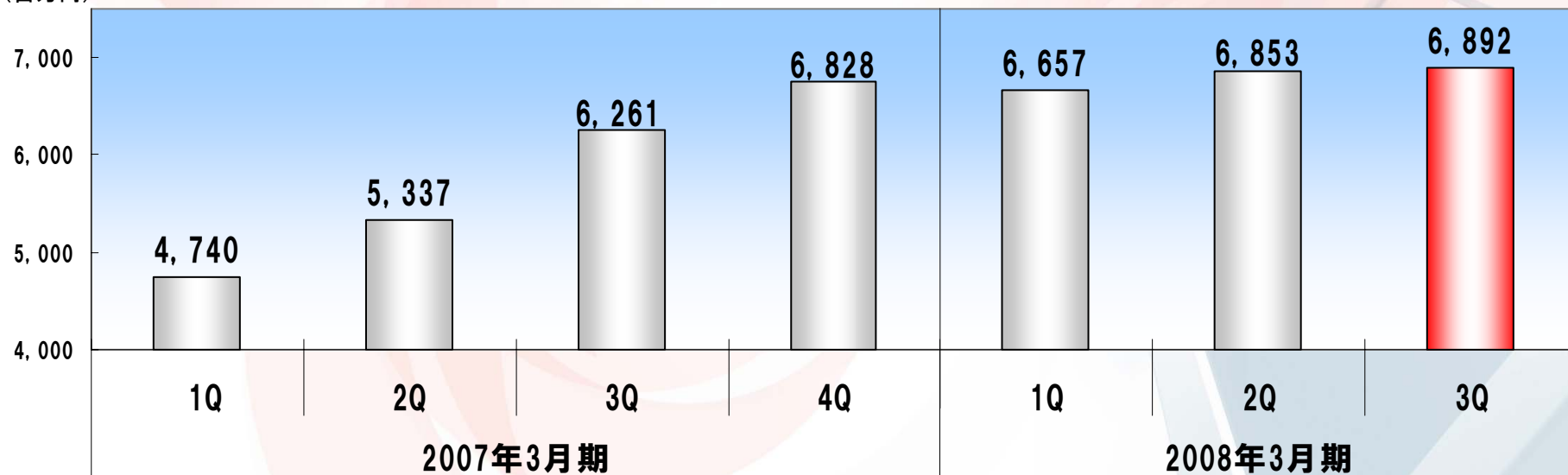
### 3. 売上高推移

■売上高は前年同期比10%増となり、過去最高となった。

(単位:百万円)

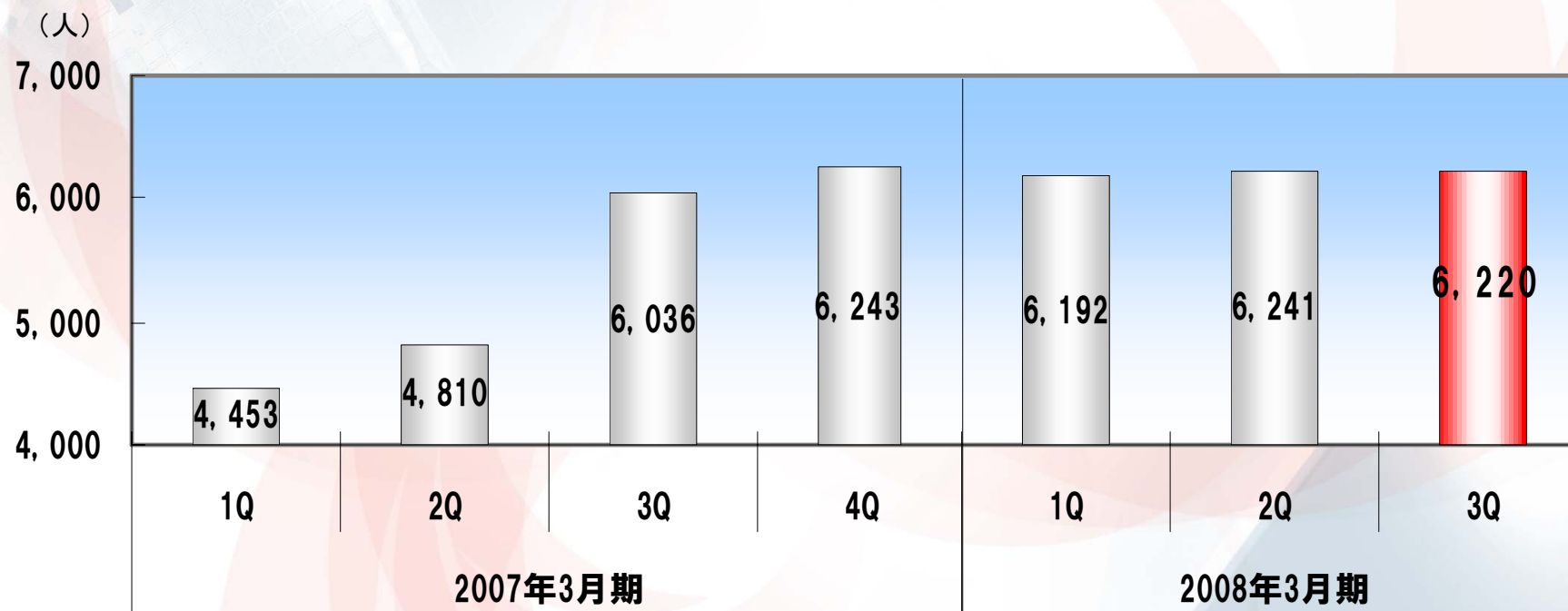
	前期 (07年3月期)				第1期 (08年3月期)		
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
売上高	4,740	5,337	6,261	6,828	6,657	6,853	6,892
増減率	+54.8%	+50.8%	+49.1%	+56.8%	+40.4%	+28.4%	+10.1%

(百万円)



## 4. 技術職社員数（2007年12月末時点在籍数）推移

■第1四半期末～第3四半期末で引き続き増加している。



\*ご参考：12月末時点の技術職社員数6,220名  
4～12月の平均在籍数 6,217名

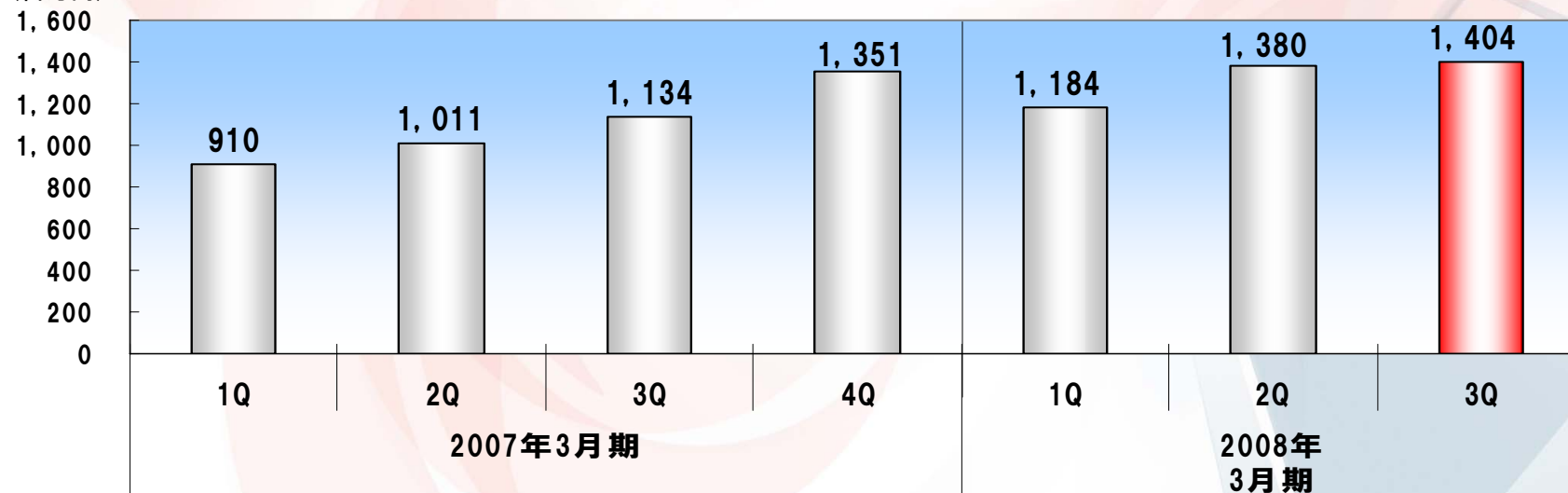
## 5. 売上総利益の状況

■ 高付加価値化による単価アップ・出来高請負ラインの生産効率改善等により、前年同期比で約29.9%増となった。

(単位:百万円)

	2007年3月期				2008年3月期		
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
売上総利益	910	1,011	1,134	1,351	1,184	1,380	1,404
売上総利益率	19.2%	18.9%	18.1%	19.8%	17.8%	20.1%	20.4%

(百万円)

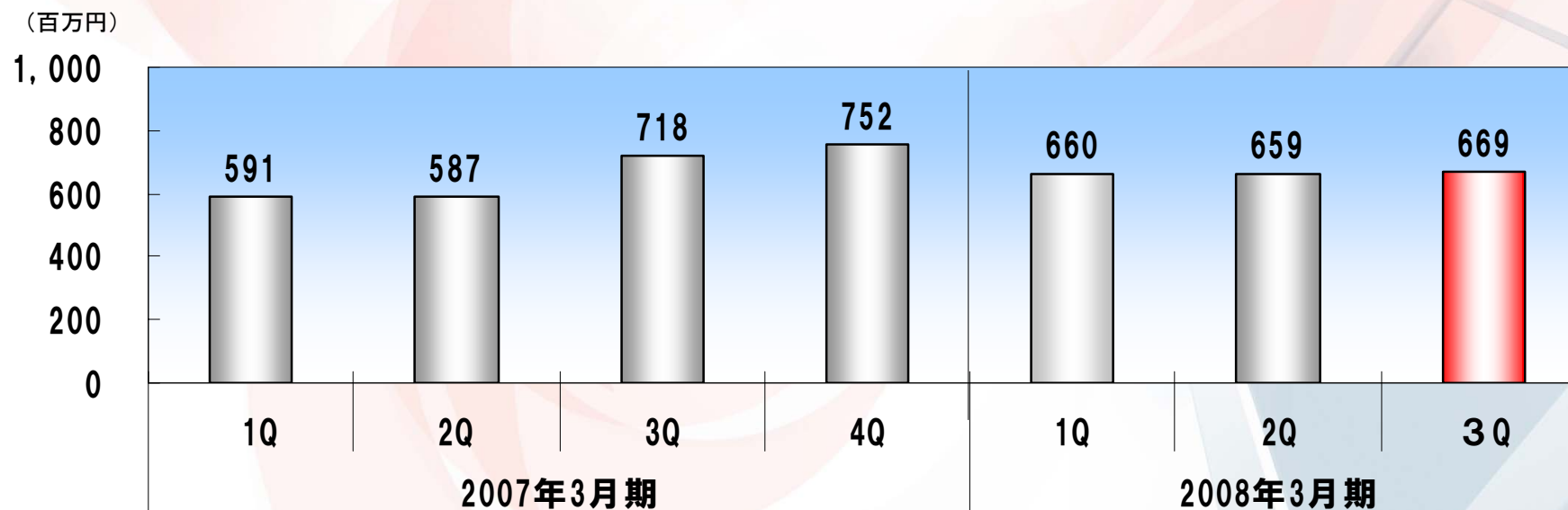


## 6. 販売費および一般管理費の状況

■ 継続的な経費低減活動等により、第3四半期は売上高が伸びたにもかかわらず販管費は前年同期1.8ポイント改善した。

(単位:百万円)

	2007年3月期				2008年3月期		
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
販管費	591	587	718	752	660	659	669
販管费率	12.5%	11.0%	11.5%	11.0%	9.9%	9.6%	9.7%



## 7. アウトソーシング事業 第3四半期トピックス

---

### ■売上高

- ・ 拡大路線から充実路線に転換した結果、安定的な売上高が継続できている。

### ■売上総利益

- ・ 単価アップおよび出来高請負ラインの生産効率改善等により、前年同期比で29.9%増となった。売上総利益率は過去最高の20.4%を達成した。

### ■販売費及び一般管理費

- ・ 継続的な経費低減活動等により、第3四半期は前年同期比で1.8ポイント改善し、販管费率9.7%を達成した。

### ■営業利益・経常利益

- ・ 売上総利益が過去最高となったことに加え、販売管理費を抑えた結果、前年同期比70%超の増加となった。



## 8. 派遣契約の抵触日問題（2009年問題）への対応状況

### 【製造現場の状況】

- ・製造派遣の期間が3年に延長されたことや昨年 of 偽装請負に関する報道により、メーカーは請負契約から派遣契約への切替えを過剰に行った。
  - ・ただしメーカーも派遣契約では抵触日問題があるため、可能な限り請負にしたいという意向が大半である。その際はコンプライアンス上のリスクは確実に回避したいと考えている。
- コンプライアンス重視で請負ノウハウを持ち、請負実績が豊富な人材会社が生き残る

### 【日本エイムの抵触日問題に対する基本方針】

- ・原則として派遣契約は全て請負契約へ移行する形で顧客と交渉を行う。
- ・万一、メーカーによる直接雇用となっても、他の工場で常に欠員があるため異動により対応する。

#### <直近1年間に抵触日を迎える派遣対応状況>

2007年12月末現在

	抵触日を迎える時期					
	2008年3月～ 2008年6月		2008年 7～10月		2008年 11～2月	
	顧客数	人数	顧客数	人数	顧客数	人数
抵触日を迎える 顧客数・在籍数	4工場	26名	0工場	0名	1工場	3名
請負化決定	1	16	0	0	0	0
請負化協議中	0	0	0	0	0	0
その他（解約など）	3	10	0	0	1	3

#### ■請負化決定

=顧客企業との間で、請負化が可能であり請負化決定、具体的に体制整備中

#### ■請負化協議中

=請負化することを前提に協議中

#### ■その他（解約など）

=解約し、顧客企業が直雇用など

- ・数々の請負体制を立ち上げてきた製造現場のスペシャリスト「グリーンベレー」を中心とした請負推進体制
- ・社労士/弁護士が内容検証済みの「日本エイム 請負チェックリスト」に基づいて顧客と共に対応
- ・請負を推進する部門横断型チーム（CFT=クロス・ファンクショナル・チーム）を結成し各支社に依存しない全社推進体制





**2008年3月期 第3四半期**  
**製造装置事業**

---

**株式会社エイペックス**



ユナイテッド・テクノロジー・ホールディングス

Copyright (C) 2007 United Technology Holdings Co., Ltd. All rights reserved.

# 1. 第3四半期累積のエイペックス(株)業績（前期比較）

■売上高は前年同期比17.0%増となったが、円高の影響により経常利益ベースで減益となった。

（単位：百万円）

	第3四半期累計				
	前期 (07年3月期)	構成比	第1期 (08年3月期)	構成比	増減率
売上高	4,424	+100.0%	5,176	+100.0%	+17.0%
売上総利益	601	+13.6%	655	+12.7%	+9.0%
販売費及び 一般管理費	352	+8.0%	511	+9.9%	+45.2%
営業利益	249	+5.6%	144	+2.8%	▲42.2%
営業外収益	89	+2.0%	77	+1.5%	▲13.7%
営業外費用	34	+0.8%	240	+4.6%	+606.6%
経常利益	304	+6.9%	▲19	▲0.4%	▲106.2%

\*2007年3月期の実績は2006年5月～2007年1月の実績を参考までに記載しています。



## 2. 第3四半期のエイペックス(株)業績（前期比較）

■円高により、為替差損が発生し、経常赤字となった。

（単位：百万円）

	第3四半期				
	前期 (07年3月期)	構成比	第1期 (08年3月期)	構成比	増減率
売上高	926	100.0%	1,757	100.0%	+89.7%
売上総利益	112	12.1%	192	10.9%	+71.8%
販売費及び 一般管理費	113	12.2%	180	10.2%	+59.6%
営業利益	▲1	▲0.1%	12	0.7%	▲1315.8%
営業外収益	62	6.7%	32	1.8%	▲48.7%
営業外費用	7	0.8%	139	7.9%	+1870.5%
経常利益	54	5.9%	▲95	▲5.4%	▲274.9%

\*2007年3月期の3Q実績は2006年11月～2007年1月の実績を参考までに記載しています。



### 3. (株)エイペックス 第3四半期まで(4月~12月)のトピックス

---

#### ■売上高

- ・前年に比べ売上高は通期で17.0%増加している。

#### ■売上総利益

- ・在庫の評価損により売上総利益率は低下した。(在庫評価損：第3四半期累計91百万円)

#### ■販売管理費

- ・当中間期より、エンジニアの人件費等(第3四半期累計129百万円)を原価から販売管理費に計上する変更を行った。この結果、販売管理費は増加した。

#### ■経常利益

- ・円高の影響により為替差損(第3四半期累計153百万円)を計上し、経常利益ベースで大幅な減益となった。



## 4. 生産ライン一括移設技術サービス受注①

### ■概要

広島エルピーダメモリ社の200mmライン内の装置約700台を中国の成芯半導体工場(成都市)へ移設する。エイペックスがゼネコン方式で、解体・輸送・立上げ・製造プロセスの保証まで行う。2007年11月から約2年間かけて実施予定、受注額は約50億円の見込み。エイペックスは過去、装置の移設を多数手がけているが、この規模の「**生産ライン一括移設**」は初受注。

### ■本案件受注の背景

#### <業界の状況>

最先端の300mmラインを除き、中古装置を活用する流れが定着している。特にアジア地区では世界中のデバイスメーカーによる中古装置を中心としたラインの新設が急増している。

#### <顧客ニーズ>

移設対象ラインの解体・立上げ等を装置メーカー毎に依頼すると移設費用が莫大となり中古装置を活用したコストダウンが実現できない。技術力のあるサードパーティに依頼したい。

#### <エイペックス>

- ①独立系中古装置販売では最大手
- ②クリーンルームを持ち、リファービッシュ・立上げ保証のための技術力を有する。  
特に国内では希少技術である、ステツパー・検査装置に特化した技術サービスを提供できる唯一のサードパーティである。
- ③毎期、海外企業との取引が全体の半数を占めるなど、グローバルな仕入・販売情報網を持つ。
- ④国内における装置の移設案件(装置200~300台)を年間2~3件実施してきた実績がある。

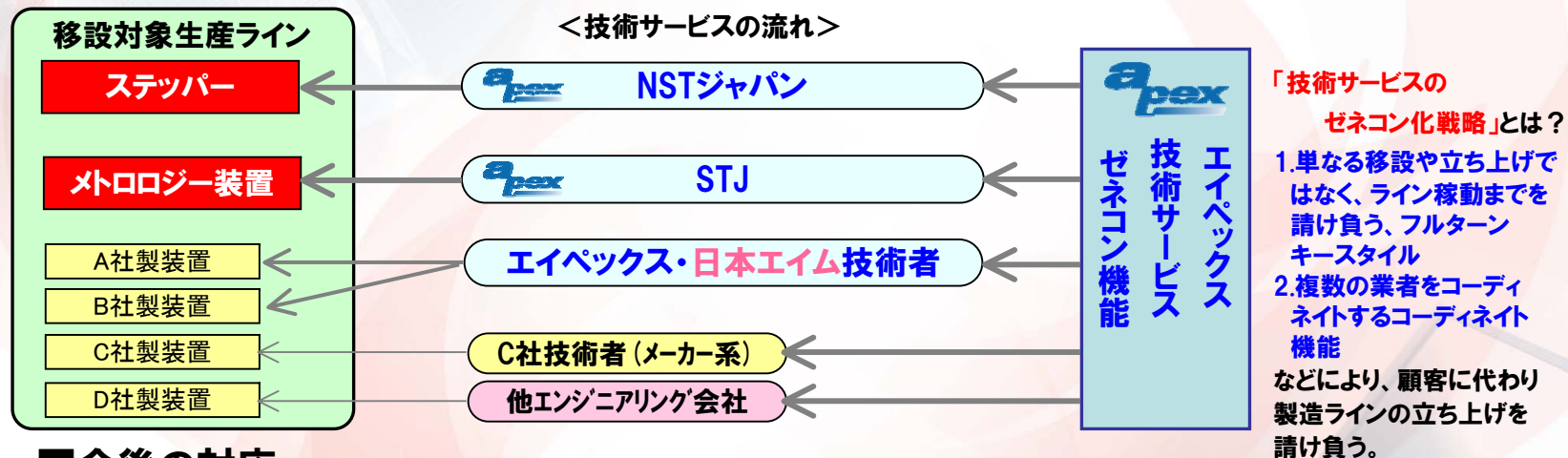
### ■本案件が当期の業績に与える影響について

2008年3月までにPhase I (200台強)の解体並びに搬出の80%を完了するスケジュールにて進行。受注金額の10~15%の売上を計画。



## 5. 生産ライン一括移設技術サービス受注について②

### ■受注のポイント:エイペックスの「技術サービスゼネコン化戦略」



### ■今後の対応

#### ①装置移設ビジネスの市場展望

- 300mmラインの導入拡大により、200mmラインを中心に移設案件は世界的に増加傾向にある。
- 中国では今回の規模の移設案件が毎年10件近くあり、今後も台湾から中国への移設など増加の見込み。
- 来期にかけて国内でも100台を越えるラインの移設の計画があり、これらのニーズを積極的に取り込んで行く。**

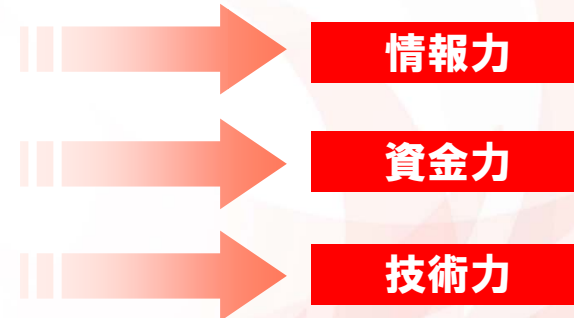
#### ②エイペックスの戦略

- 今回の移設プロジェクトを通じて、アジア地区でのエンジニアのネットワークを構築し、差別化を図っていく。
- 将来的にはUTグループ製造装置事業の1つの柱となる事業としたい。
- 移設ビジネスを通じて装置メーカーとの協力関係を構築し、技術サービスの拡充を目指す、**

## 6. 戦略在庫の動向

### ■中古半導体製造装置ビジネスの概況

- (1) 中古半導体装置販売においては、装置の仕入がポイント。  
装置を確保できないとビジネスが成り立たない。
- (2) 現在の仕入の動向は、海外での8inch装置の一括購入方式が  
主流となりつつあり、資金力が必要になってきている。
- (3) 仕入れた装置を着実に販売し、利益を確保するには、
  - ①装置のリファブ・立ち上げができる技術力と
  - ②保管費用を最小限に抑えるためのインフラが重要になってきている。



### ■エイペックスの仕入戦略



## 7. 戦略在庫の調達の状況

### ■戦略在庫残高

#### ①戦略在庫残高

(単位: 千円)

プロセス名	2007年6月末	2007年9月末	2007年12月末	増減
フォトリソ	699,671	540,207	559,508	19,301
メトロロジー	490,869	521,780	321,627	△200,153
CVD・エッチャー	855,410	731,185	754,754	23,569
その他	299,850	442,779	164,466	△278,313
合計	2,345,800	2,235,951	1,800,355	△435,596

#### ②共同仕入残高

当社出資分 979,376千円 (共同保有分を含めると、約45億円)





**2008年3月期 第3四半期**  
**製造装置事業**

---

**マイクロ技研株式会社**



# 1. ミクロ技研(株) 概要

- 商号： ミクロ技研株式会社
- 代表者： 代表取締役 小俣與一
- 所在地： 東京都中央区日本橋箱崎町18番11号
- 設立年月日： 昭和51年10月28日
- 主な事業の内容： 半導体・FPDの製造装置その他検査・加工装置の製造・販売
- 従業員数： 161名（平成19年3月31日現在）
- 生産拠点： 東京工場、九州工場、静岡テック
- 営業拠点： 東京本部、東北事業所、上信越事業所、関西事業所、九州事業所
- 海外法人： マレーシア、アメリカ、韓国、台湾、中国
- 資本金の額： 277,010千円（平成19年3月31日現在）
- 最近事業年度の業績： （単位：千円）

	平成16年12月期	平成17年12月期	平成18年3月期 (3ヶ月)	平成19年3月期
売上高	11,490,411	10,931,739	2,883,210	15,515,883
営業利益	352,800	504,316	20,007	1,459,559
経常利益	300,778	468,987	△51,923	1,412,856
当期利益	162,488	244,344	△38,806	662,976
総資産	10,065,035	13,217,926	13,148,649	14,682,137
純資産	1,678,113	1,906,858	1,852,452	2,681,349

## 2. 第3四半期累計のマイクロ技研(株)業績

(単位:百万円)

	2007年3月期		2008年2月期							
	通期実績	構成比	1Q	構成比	2Q	構成比	3Q	構成比	累積	構成比
売上高	15,515	100.0%	4,126	100.0%	5,609	100.0%	5,035	100.0%	14,770	100.0%
売上総利益	2,667	17.2%	950	23.0%	1,008	18.0%	474	9.4%	2,432	16.5%
販売費及び 一般管理費	1,207	7.8%	218	5.3%	231	4.1%	262	5.2%	711	4.8%
営業利益	1,459	9.4%	732	17.7%	777	13.9%	211	4.2%	1,720	11.6%
経常利益	1,412	9.1%	730	17.7%	786	14.0%	243	4.8%	1,759	11.9%



### 3. ミクロ技研(株) 第3四半期トピックス

#### ■第3四半期の状況

- ・第3Q売上高は海外への販売を中心に増加したが、利益率の高い自社工場製品の売上が上期偏重であるため、売上総利益、営業利益ともに低下した。

#### ■現在の市場分析

- ・2008年3月期下期については、テレビの小売価格の下落などの影響で FPD業界において設備投資が一段落している。
- ・液晶製造装置に関しては、韓国・台湾製の装置との競合もあり、装置の技術寿命の短期化が進んでいる。他社に先駆けて、市場のニーズに応えられる製品を提供することが求められている。

#### ■今後の対応

- ・半導体・FPDメーカーについては市場優位性のある技術(特許等があるもの)を用いた自社装置のための研究開発に注力し行く。
- ・ウェハーメーカー向け装置については、300mmライン用の需要増に対応して、新製品の開発に注力している。





**2008年3月期 第3四半期  
設計開発事業**

---

**株式会社アルティスタ**



ユナイテッド・テクノロジー・ホールディングス

Copyright (C) 2007 United Technology Holdings Co., Ltd. All rights reserved.

# 1. 第3四半期累計の(株)アルティスタ業績

■売上高では前年同期比31.6%増となったが、未経験者への研修や人材育成に係る教育設備の拡充等により、売上原価および販売管理費は増加した。

(単位:百万円)

	第3四半期累計				
	07年3月期	構成比	08年3月期	構成比	増減率
売上高	566.1	100.0%	745.1	100.0%	+31.6%
売上総利益	119.2	21.1%	150.4	20.2%	+26.2%
販売費及び一般管理費	62.5	11.0%	99.6	13.4%	+59.4%
営業利益	56.6	10.0%	50.8	6.8%	-10.2%
経常利益	55.5	9.8%	55.8	7.5%	0.5%



## 2. 第3四半期の(株)アルティスタ業績

(単位:百万円)

	第3四半期				
	2007年3月期	構成比	2008年3月期	構成比	増減率
売上高	210.3	100.0%	258.4	100.0%	+22.9%
売上総利益	30.9	14.7%	43.9	17.0%	+42.1%
販売費及び 一般管理費	22.2	10.6%	31.3	12.1%	+41.0%
営業利益	8.7	4.1%	12.6	4.9%	+44.8%
経常利益	8.3	3.9%	7.0	2.7%	-15.7%



### 3. 設計開発事業（(株)アルティスタ）トピックス

#### ■売上高

- ・顧客数は12月末時点で20社22事業所で、主にシャープとの取引拡大によって売上高が拡大した。

#### ■売上総利益

- ・未経験者への研修に係る人件費が増加し、第3四半期累計の前年対比売上総利益率は低下した。  
（未稼働期間発生：2ヶ月程度）

#### ■販売管理費

- ・未経験者への教育体制構築のため設備リースの実施や、受託化を推進していくために取得したISOの費用化がされた。

#### ■社員数

- ・12月末時点で社員数は142名、外注を含めて158名で対応した。

#### ■その他

- ・増加傾向のトヨタ系列の受注に対応するため、自動車関連（CADなど）のための教育施設を拡充した。
- ・電気電子系研修機材拡張（現状社員向けに行っている技術研修を外販して行く計画。）





# 新会社のご紹介

---



ユナイテッド・テクノロジー・ホールディングス

Copyright (C) 2007 United Technology Holdings Co., Ltd. All rights reserved.



## ■グローバル・ファイン・テックの概要について

### 株式会社グローバル・ファイン・テックの概要

- |             |   |
|-------------|---|
| (1) 商号      | 株式会社グローバル・ファイン・テック                                      |
| (2) 代表者     | 中川 晃次(当社取締役)  |
| (3) 所在地     | 東京都品川区北品川四丁目7番35号                                       |
| (4) 設立年月日   | 平成20年2月1日   |
| (5) 主な事業の内容 | ①技術者の派遣及び請負業務<br>②生産技術の向上及びコストダウンのためのサービスツールの開発・販売、受託業務 |
| (6) 決算期     | 3月31日   |
| (7) 従業員数    | 60名(予定)   |
| (8) 資本金     | 3,000万円   |
| (9) 株主構成    | ユナイテッド・テクノロジー・ホールディングス株式会社100%                          |

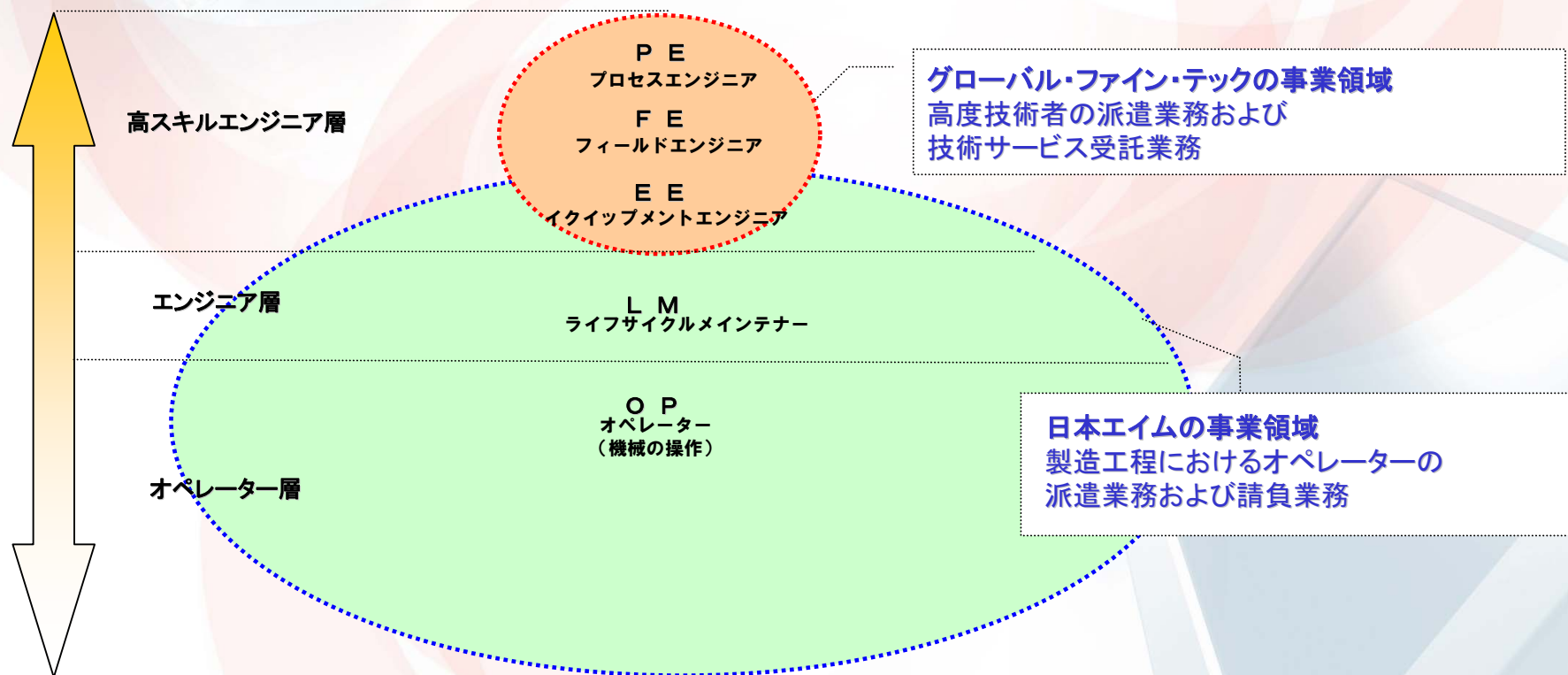
(注) サービス開始予定日は2007年3月以降を予定しており、当期に与えるインパクトは軽微であります。





## ■グローバル・ファインテックの事業領域

新会社を設立して、現状採用できていなかったエンジニア層を取り込み、半導体製造工程における高度技術者に対するニーズに応え、より幅広いサービスを展開する。





## ■コミットメント

- **EPS成長率**      **30%以上**
- **配当性向**      **30%以上**

### 【補足説明】

#### •EPS成長率

1株当たりの成長性を測る指標。今期EPS/前期EPSで求める。  
EPSは、1株に対して当期利益(税引後当期利益)がいくらあるかを表す。  
式「 $EPS = \text{当期利益(税引後当期利益)} \div \text{発行済み株式数}$ 」

#### •配当性向

配当の原資となる税引後当期利益に対する配当金の比率を表す。



# Technology & Teamwork

この配付資料に記載されている業績目標等は、いずれも当社グループが現時点で入手可能な情報を基にした予想値であり、これらは経済環境、競争状況、新サービスの成否などの不確実な要因の影響を受けます。従って、実際の業績はこの配付資料に記載されている予想とは大きく異なる場合がありますことをご承知おき下さい。

